

You, Unlimited

龍谷大学大学院

国際学研究科

Graduate School of

International
Studies

2026



RYUKOKU
UNIVERSITY

国際学研究科

Graduate School of International Studies

世界には思索の種子がたくさん転がっている。

20 世紀の終盤に始まったグローバル化は、21 世紀になってさらに加速し、人と情報の流れは言語や国境を越えてボーダーレスに展開しています。また、このような時代を生きるためには、世界的課題やそれぞれの地域社会が抱える諸問題を明らかにする必要がありますが、そのためには複眼的にこれらの諸課題を検討した上で、多様な見解を持つ他者との対話や交流を通じて、自らの考えを深め、解決方法を提示し、関係者を説得していくことが、理論的にも実践的にも必要となります。



POINT

国際学部の学びを受けつぐ修士3専攻 博士後期2専攻

希望の研究フィールドに応じて、修士課程は、国際文化学専攻、グローバルスタディーズ専攻、言語コミュニケーション専攻の3つから、博士後期課程は、国際文化学専攻、グローバルスタディーズ専攻の2つから選択可能です。

複数指導体制による、充実した論文指導

指導教員のほかに副指導教員を配置し、さまざまな角度から研究テーマを掘り下げます。

多くの留学生との学術的交流

研究科に所属している多くの留学生との交流を通じて、知を相対化していきます。

教育理念・目的

建学の精神に基づいて、グローバル化の加速的な進展のなかで、現在の国際社会が直面している諸課題・諸現象と批判的に向き合い、多様な文化が共生する社会の実現に向けて、国際的な舞台でリーダーシップを発揮し活躍できる高度専門職業人・実務家・研究者の養成を目的としています。

修士課程	国際文化学専攻	相互依存が著しく進む現代世界が直面する新たな諸現象・諸問題を、文化の視座から批判的に考察し、高度な専門的知識と外国語能力を発揮して解決方法を探索することができる人材、また得られた知見を高度専門職業人・実務家・研究者として発信できる人材を養成します。
	グローバルスタディーズ専攻	グローバル化が急速に進展する現代の国際社会が抱える諸問題を、幅広い視点から複合的かつ批判的に理解し、高度な専門的知識と外国語能力を発揮して、その解決方法を探索することができる人材、また得られた知見を高度専門職業人・実務家・研究者として発信できる人材を養成します。
	言語コミュニケーション専攻	グローバル化が急速に進展する社会における言語およびコミュニケーションの意義や役割に関する問題意識をもち、主体的かつ自律的に学ぶことによって卓越した専門的知識や技能を習得し、高い語学力・対話力をもってリーダーシップを発揮して高度専門職業人・実務家・研究者として相互理解や多文化理解の推進に貢献できる人材を養成します。
博士後期課程	国際文化学専攻	相互依存が著しく進む現代世界が直面する新たな諸現象・諸問題を、文化の視座から批判的に考察し、高度な専門的知識と外国語能力を発揮して、その解決方法を国際的な舞台で提言し、多文化が共生できる社会の創造に高度専門職業人・研究者として貢献できる人材を養成します。
	グローバルスタディーズ専攻	グローバル化が急速に進展する現代の国際社会が抱える諸問題を、幅広い視点から複合的かつ批判的に理解し、高度な専門的知識と外国語能力を発揮して、その解決方法を国際的な舞台で提言し、豊かな社会の創造に高度専門職業人・研究者として貢献できる人材を養成します。

研究科長のメッセージ

世界のボーダレス化と一体化が急速に進む一方で、地域・国家間の激しい対立や摩擦が戦争や内戦、種々の紛争に発展するケースも少なくありません。私たちはそのような目まぐるしい変化と不確実性に満ちた時代に生きているといえます。現代世界が抱える諸課題の背景には複数の多様な要因が存在し、それらが相互に複雑に絡み合っており新たな問題を生じることもしばしばです。

2019年度に創設された国際学研究科は、これまでの既存の学問では対処できない諸問題を、より多角的・多面的にかつ複眼的に考察することで問題を把握しようとする、国際関係論、文化人類学、言語学、比較文化学など複数の領域横断的な研究の場を提供しています。修士課程では、より専門的な観点から、国際文化学専攻、グローバルスタディーズ専攻、言語コミュニケーション専攻という三つの専攻体制によって、学修の高度化を段階的に促進し、広い視野で学識を深められる教育課程を提供しています。また、博士後期課程では研究者としての高度な研究能力の涵養をめざし、また、その研究能力をさまざまな国際社会・地域社会の場で生かしていくことを目標としています。

学問の探究は常に困難を伴いますが、院生の皆さんだけでなく教員も共に切磋琢磨し、刺激し合いながら、知を蓄積し、学問を深めていく進化する研究科でありたいと考えています。

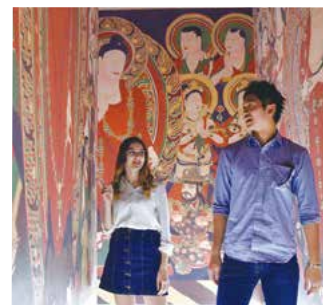


国際学研究科長

カルドネル
シルヴァン 教授

修士課程 国際文化学専攻

相互依存が一層著しく進む今の世界において、文化という視点から専門性と実践能力を身につけた人材を養成することを目的に、「日本」、「共生社会」、「言語文化」、「宗教文化」、「芸術・メディア」という5つの領域に立脚しつつ、異文化間関係にかかわる幅広い学問的方法論を身につけます。多様な国籍からなる指導教員が責任をもって手厚い指導をおこない、院生一人ひとりが修士論文の完成を目指します。これらを通じて、専攻や研究科の枠組みを超えて研究活動をおこない、国内外の開かれた学問社会との交流によって、広く研究活動をおこなうことができる次代の高度職業人や研究者となる人材を育成します。



専攻の特色

1

国際文化研究の多様な側面を理解する科目の配置

国際文化研究の多様な側面を理解し、その中で自分の方法論を確立していくために、「国際文化学」「調査方法論」を必修として配置します。

2

5領域による専門性や能力の修得

日本、共生社会、言語文化、宗教文化、芸術・メディアに関連する専門科目を配置します。これらの専門科目においては、各自の研究テーマに必要な語学能力、文献探索能力、フィールドワークの能力などを身に付けます。

3

複数の専任教員によるチーム・ティーチング

1年次から演習を配置し、指導に当たる主・副となる教員の指導を受けることで、研究遂行にあたっての基礎知識を修得し、自らの研究テーマに関わる分析力・考察力を養い、修士論文を作成します。

4

フィールド調査補助などの支援体制

国際文化学専攻は、法学研究科および経済学研究科と合同で実施する「アジア・アフリカ総合研究プログラム」へも所属が可能です。プログラムへの所属により、プログラムが提供するフィールド調査費(上限20万円)によって現地調査を行うことが可能です。

《リサーチセミナー》

各大学院生が自身の研究成果を報告し、他の大学院生や担当教員からの批判やコメントを得る機会として、また、国内外の国際文化学の第一線の研究者や、本学教員による研究発表を聞き、相互に議論する機会として、1年次に「リサーチセミナー(A・B)」を開講しています。

修士課程 国際文化学専攻 カリキュラム

修了要件 30単位	1年		2年	
	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター
基礎科目	国際文化学	調査方法論		
	リサーチセミナーA	リサーチセミナーB		
応用科目	<日本研究領域> 日本研究A、日本研究B <共生社会研究領域> 共生社会研究A、共生社会研究B <言語文化研究領域> 言語文化研究A、言語文化研究B <宗教文化研究領域> 宗教文化研究A、宗教文化研究B <芸術・メディア研究領域> 芸術・メディア研究A、芸術・メディア研究B			
	<AAプログラム> 民際学概論、民際学理論研究、アジア経済史研究、フィールド調査研究、アフリカ社会論研究、アジアアフリカ総合研究特別演習			
演習科目	演習Ⅰ	演習Ⅱ	演習Ⅲ	演習Ⅳ

修士論文提出

➡

修士(国際文化学)学位取得
公開審査

- 秋入学者は基礎科目の履修順序が変わります。
- 年度により一部科目が不開講となる場合や開講セメスターが変更となる場合もあります。
- 応用科目からは、5領域(日本研究、共生社会研究、言語文化研究、宗教文化研究、芸術・メディア研究)から2領域を選択して重点的に履修し(計4科目: 8単位)、その他の領域からの1科目(2単位)も加えて、5科目(10単位)以上を修得する必要があります。
- アジア・アフリカ総合研究プログラムについては、10ページをご覧ください。

修士課程 グローバルスタディーズ専攻

20 世紀の終盤から急速に展開するグローバル化の中で、世界はますます多様化・流動化すると同時に相互依存関係を深め、多くの重層的・複合的な諸課題に直面しています。グローバルスタディーズ専攻では、主として「グローバリゼーション」「コミュニケーション」「エシックス」に焦点化し、それら3領域による複合的な視点から専門的研究を展開することを通して、進取の気概をもって国際社会に貢献できるリーダーを育成します。また、授業を英語で開講し、英語での修士論文執筆を必修とするカリキュラムで、入学者を国内外から積極的に受け入れています。



専攻の特色

1 すべての科目を英語で配置

グローバルな舞台で活躍できる人材を育成するために、全ての授業を英語で受講できます。1年次科目として「Introduction」を配置し、各自の研究がどのような意義を持ち、またその遂行にはどのような方法論を選択する必要があるかを修得します。

2 3領域からなる研究分野

既存の国際学部グローバルスタディーズ学科に対応し、グローバルスタディーズを「グローバリゼーション」、「コミュニケーション」、「エシックス」の3領域からなる研究分野であると定義します。そのうえで、これらの領域が複合的に重なりあう部分に呼応する研究テーマをそれぞれの大学院生が設定し、それらの課題を広さと深さを併せ持つ形で探求します。

3 複数教員からの指導、英語による修士論文作成

1年次から演習を配置し、主・副担当教員からの助言と指導をもとに、研究遂行にあたって必要な基礎知識を修得し、自らの研究テーマに関わる分析力・考察力を養い、英語で修士論文を作成します。

4 国際的な研究や活動に裏打ちされた教員による教育

国際的な舞台で研究・活動を進めている専任教員が指導を担当します。本専攻教員の内、約60%は海外の大学院で学位（修士号もしくは博士号）を取得し、またほとんどの教員が国際的な舞台で英語を使用して研究成果を公開しています。

《Research Seminar》

各大学院生が自身の研究成果を報告し、他の大学院生や担当教員からの批判やコメントを得る機会として、また、国内外の国際学の第一線の研究者や、本学教員による研究発表を聞き、相互に議論する機会として、1年次に「Research Seminar(A・B)」、2年次に「Research Seminar(C・D)」を開講しています。

修士課程 グローバルスタディーズ専攻 カリキュラム

修了要件 30単位	1年		2年	
	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター
基礎科目	Introduction			
	Research Seminar A	Research Seminar B	Research Seminar C	Research Seminar D
応用科目	<Globalization領域> Global History / Globalization and Area Studies / Globalization and Social Development <Ethics領域> Global Ethics / Global Inequality and Sustainability / Globalization, Conflict and Justice <Communication領域> Communication Studies / Language, Power & Identity/ Global Communicative Competence Studies			
演習科目	Thesis Seminar I	Thesis Seminar II	Thesis Seminar III	Thesis Seminar IV

英語による修士論文提出

公開審査

修士（グローバルスタディーズ）学位取得

- 秋入学者は基礎科目の履修順序が変わります。
- 年度により一部科目が不開講となる場合や開講セメスターが変更となる場合もあります。
- 応用科目の、Globalization、Ethics、Communication の各領域から1科目以上を含む計8単位以上を修得する必要があります。

修士課程 言語コミュニケーション専攻

ますます顕著になりつつあるグローバル化の状況の中で、高い語学力・対話力をもってリーダーシップを発揮して国内外の社会において活躍できる人材の育成が急務です。グローバル社会の中で求められる新たな言語教育の展開に貢献するために教員養成課程を設置し、英語教員としての高度な専門性や実践的能力だけでなく、グローバルな視点から多様な価値観を捉え直すとともに、相互に関連を深める国際情勢を複眼的な視点から総合的・大局的に分析し、問題解決に向けて高い英語力・対話をもって積極的に行動できるリーダーを育成します。



専攻の特色

1

「第二言語習得」に関わる方法論科目

1年次には「第二言語習得」に関わる質的・量的調査法に関わる基礎科目を必修として配置し、研究方法に関する基礎を修得します。

2

3領域に関わる重点科目を系統的に配置

「通訳・翻訳」、「英語教育学」、「応用言語学」の3領域に関わる重点科目を系統的に配置し、言語教育の研究に関わる理論的・実践的基盤を培います。

3

複数の専任教員によるチーム・ティーチング

1年次から演習を配置し、指導に当たる主・副となる教員の指導を受けることで、研究遂行にあたっての基礎知識を修得し、自らの研究テーマに関わる分析力・考察力を養い、修士論文を作成します。

4

国際的な研究や活動に裏打ちされた教員による教育

国際的な舞台で研究・活動を進めている専任教員が指導を担当する。本専攻教員の内、85%は海外で大学院の学位(修士号もしくは博士号)を取得し、またほとんどの教員が国際的な舞台で英語を使用して研究成果を公開しています。

《英語専修免許(中学校・高等学校)が取得可能》

「中学校・高等学校英語教員(専修免許)」の課程を併設。専攻内の定められた科目を修得することで取得可能です。
(※一種免許状を有している方が対象です。)

修士課程 言語コミュニケーション専攻 カリキュラム

修了要件 32単位	1年		2年	
	1 Semester	2 Semester	3 Semester	4 Semester
基礎科目	Research Methods A	Research Methods B		
応用科目	通訳・翻訳研究A、通訳・翻訳研究B、日英通訳・翻訳研究、通訳・翻訳セミナー、Psychology and Language Learning、外国語学習方法論、言語政策論、Language Testing and Assessment、Pragmatics in Language Learning and Teaching、Second Language Teacher Education、Communication Studies、Language, Power & Identity、Global Communicative Competence Studies、Global History、Global Ethics			
演習科目	言語コミュニケーション演習Ⅰ	言語コミュニケーション演習Ⅱ	言語コミュニケーション演習Ⅲ	言語コミュニケーション演習Ⅳ

英語による修士論文提出

➡

公開審査

➡

修士(言語コミュニケーション)学位取得

- 秋入学者は基礎科目の履修順序が変わります。
- 年度により一部科目が不開講となる場合や開講セメスターが変更となる場合もあります。

博士後期課程 国際文化学専攻

相互依存が著しく進む現代世界が直面する新たな諸現象・諸問題を、文化の視座から批判的に考察し、高度な専門的知識と外国語能力を発揮して、その解決方法を国際的な舞台で提言し、多文化が共生できる社会の創造に高度専門職業人・研究者として貢献できる人材を養成します。



カリキュラムの特徴

1

演習指導を通じて、専門的知識をさらに深めるのみならず、複合的・学際的視点を用いて、設定したテーマにアプローチできるための幅広い学術的研鑽を積み重ねます。

2

研究科内外での学会や研究会において発表を行い、内外の研究者との交流を深めるとともに、将来自立した研究者となるために必要なさまざまな能力を構築します。

3

先行研究によっても十分解明されていない論点について学術的にも貢献できるように、研究の射程ならびに研究の方法論について独自の視点をもてるようにします。

4

1年次から演習を配置し、主・副担当教員からの助言と指導のもとに、自らの研究テーマに関わる分析力・考察力を養い、博士論文を作成します。

博士後期課程 国際文化学専攻 カリキュラム

科目区分	1年		2年		3年	
	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター
演習科目	演習Ⅰ	演習Ⅱ	演習Ⅲ	演習Ⅳ	演習Ⅴ	演習Ⅵ

博士後期課程 グローバルスタディーズ専攻

グローバル化が急速に進展する現代の国際社会が抱える諸問題を、幅広い視点から複合的かつ批判的に理解し、高度な専門的知識と外国語能力を発揮して、その解決方法を国際的な舞台で提言し、豊かな社会の創造に高度専門職業人・研究者として貢献できる人材を養成します。



カリキュラムの特徴

1

演習指導を通じて、専門的知識をさらに深めるのみならず、人文学の視座を中心にした複合的・学際的視点から、設定したテーマにアプローチできるための幅広い学術的研鑽を積み重ねます。

2

研究科内外での学会や研究会において発表を行い、内外の研究者との交流を深めるとともに、将来自立した研究者となるために必要なさまざまな能力を構築します。

3

1年次に「PhD. Research Seminar」を配置し、研究成果を効果的に発信するために必要なスキルと方法を学び、自立した研究者となるための能力を涵養します。

4

1年次から演習を配置し、主・副担当教員からの助言と指導のもとに、自らの研究テーマに関わる分析力・考察力を養い、博士論文を作成します。

博士後期課程 グローバルスタディーズ専攻 カリキュラム

科目区分	1年		2年		3年	
	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター
基礎科目	PhD. Research Seminar					
演習科目	Thesis Seminar I	Thesis Seminar II	Thesis Seminar III	Thesis Seminar IV	Thesis Seminar V	Thesis Seminar VI

学位取得までのプロセス

修士号 学位取得までのプロセス（抜粋）

1年		2年	
1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター
●指導教員および副指導教員の決定 ●研究題目届の提出	●研究経過報告書の提出	●修士論文計画書の提出 ●中間発表	●公開最終発表 ●修士論文提出 ●公開口述試験 ●公開優秀論文審査

修士号授与

※詳細は、履修要項を必ず確認してください。

博士号 学位取得までのプロセス（抜粋）

1年		2年		3年	
1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター
●指導教員および副指導教員の決定 ●研究計画書の提出	●研究経過報告書の提出		●研究経過報告書の提出 ●博士論文提出資格試験（4セメ以降）	●公開研究発表（関連学会等での発表） （学会誌等への論文投稿）	●博士論文提出 ●公開審査

博士号授与

※詳細は、履修要項を必ず確認してください。

修士・博士論文タイトル紹介

修士論文題目例

- 仏教的エトスである施しを活用した貧困解決の可能性の模索
ースリランカをフィールドとしてー
- SNSと広告炎上から見る日本の社会と文化
ーナイキジャパン「The Future Isn't Waiting」を例にー
- MOTIVATIONS FOR STUDYING ABROAD
ーThe Case of Vietnamese Students in Japanー
- シルクロードの音楽文化交流研究
ー漢唐時代における阮咸楽器の図像を中心にー
- ノンフィクション番組の越境と受容
ーNHK「ドキュメント72時間」が若年層中国人視聴者に与える影響ー
- KPOPファン活動を通じて形成される多様な関係が及ぼす影響力
ーアイデンティティや日常生活を中心にー
- 殷周時代青銅器文様研究
ー饗養文と鬼神信仰を中心にー
- Responsibility and Ethics in International Relations
ーThrough the Russia-Ukraine Contextー
- EFL Learners in Immersion Education: A Study on Adaptation and Struggle
- Exploring the Effects of Study Abroad Experiences on Preservice Teachers' Perceptions of Future Teaching
- Exploring pre-service English teachers' beliefs regarding CLT in a university-based teacher education program
- The impact of teaching practicums on Japanese pre-service teachers' self-efficacy for implementing communication-oriented English classes
- Exploring the factors determining foreign language teaching anxiety
ーA Japanese elementary school contextー
- Decolonizing a Pluriversal IR
ーA Critical Engagement with Linear Temporalityー
- The impact of teacher-student relationship and self-perceived English proficiency on students' English learning motivation
- メトロポリタン美術館所蔵《文字で構成される孔雀の図像表現》の研究
- 2000年代の少女マンガにおける男性表象について
ー「オトメン」というケーススタディー
- 『ちやお』世代のおしゃれ観
ーマンガ雑誌による若年女性の行動規範の形成ー
- Why "Freedom of Speech" Should Be Defended Even When It Is Controversial
ーMapping "Hate Speech" in Public Discourseー
- Buddhism as a Solution: Addressing Social Pressures and Mental Health Challenges in Contemporary China
- Factors Affecting English-Speaking Attitudes by Foreign Language Speaking Anxiety
ーAn Investigation of Japanese University Studentsー
- Explaining EFL Teachers' Self-Efficacy for Communicative Language Teaching
ーA Japanese Middle School Contextー
- Japanese University Students' Perceptions of Virtual Exchange Programs
ーA Focus on Readiness for L2 Communicationー
- Exploring How Japanese Learners of EFL Demonstrate Metapragmatic Awareness in Advice-Giving Situations
ーSense of Divergence from and Convergence into Imaginary Nativenessー
- 蒙元時代の儀礼文化研究
ー中国本土の壁画を中心にー
- 中国人留学生の留学動機とパターンの変化
- MEDIA REPRESENTATION OF UKRAINIAN REFUGEES IN JAPAN: ANALYZING ASAHI SHIMBUN (2022-2024)
- ALTs' Responsibilities in Elementary School English Classes: A Study of Alignment with Japan's Course of Study

博士論文題目例

- Ambiguities and Contradictions in Japanese University Internationalization
ー A Multi-Case Study Focusing on Non-Elite Universities ー
- 中国都市部の路上古物市場をめぐる〈空間〉と〈場所〉の人類学的研究
ー天津における「鬼市」を事例としてー
- 日系マイノリティーの歴史からみるアメリカ多文化主義批判
ー ツールレイク強制収容所のサバルタン史から ー
- カンボジアにおけるポストコロナルな性の構造の考察
- Formation and Stylistic Development of Turkman Painting
- 契丹輿服の考古学研究
ー遼墓の壁画を中心としてー
- 東アジアにおける四神思想の変遷
ー日本の四神思想を中心にー
- トルファンソグド人墓の総合的研究
ー考古学資料を中心にー
- A Social Semiotic Multimodal Study of Commercial Boys Love (BL) Manga Covers in Japan

充実した研究設備

研究科生全員に机、ロッカーの設置された合同研究室をはじめ、カジュアルな研究発表・交流を目的とした研究ラウンジ、多くの蔵書や自学自習、交流スペースを備えたコモンズなど、充実した研究を実現する各種設備を用意しています。



専任教員紹介

Academic Staff Introduction

国際学研究科所属の教員を、
それぞれの研究テーマとともに紹介します。

氏名 name

専門分野・主な研究テーマ

国際文化学(修士・博士後期)

[教授]

泉 文明

IZUMI, Fumiaki

日本語学／日本語教育学
対照研究／語彙論
誤用例研究／文字表記論
コミュニケーション論
文化と表現／京ことば／
京都研究



[教授]

カルドネル
シルヴァン

Sylvain CARDONNEL

赤瀬川原平研究／
日本文学翻訳



[教授]

カルロス マリア・
レイナルス

M.Reinaruth CARLOS

人的資源と経済発展／
国際労働移動の
経済分析



[教授]

佐野 東生

SANO, Tosei

イスラーム地域研究／
イラン近現代史



[教授]

史 彤嵐

SHI, Tonglan

中国語学／
日本人に対する
中国語教育



[教授]

徐 光輝

XU, Guanghui

中国考古学／
東(北)アジア古代
文化交流史



[教授]

鈴木 滋

SUZUKI, Shigeru

人類学／
霊長類学／
人類進化論



[教授]

嵩 満也

DAKE, Mitsuya

仏教と現代思想／
親鸞思想の現代的解明



[教授]

友永 雄吾

TOMONAGA, Yugo

社会・文化人類学／
オーストラリア
地域研究／
オーストラリア
先住民(族)研究



[教授]

朴 炫国

PARK, Hyun Kuk

韓国文学／民俗学／
日本人に対する
韓国語教育



[教授]

古川 秀夫

FURUKAWA, Hideo

ボランティア・
インターンシップ／
ゆとりと余暇／
労働意識／価値観 など



[教授]

松居 竜五

MATSUI, Ryugo

南方熊楠研究／
近代日本思想史



[教授]

八幡 耕一

YAWATA, Koichi

情報文化論／
メディア研究／
ジャーナリズム論



[教授]

劉 虹

LIU, Hong

社会言語学／
中国言語学／
会話分析／
日中文化の比較



[准教授]

澤西 祐典

SAWANISHI, Yusuke

日本近代文学／
比較文学



[准教授]

杉本バウエンス
ジェシカ

SUGIMOTO
Bauwens Jessica

カルチュラル・スタディーズ／
映像文化論／
マンガ研究／
スタディーズ／
マンガ比較文化論



[准教授]

デブナール
ミロシュ

Milos DEBNAR

移民・国際移動／
エスニシティ／
人種／日本社会



[准教授]

林 則仁

HAYASHI, Norihito

イスラーム
美術史・建築史／
東西美術文化交流史



[准教授]

早島 慧

HAYASHIMA, Satoshi

インド仏教学／
大乘仏教思想



[講師]

青嶋 絢

AOSHIMA, Aya

芸術学／音楽学／
芸術運営学
(Arts Management)



[講師]

塚本瑞香

TSUKAMOTO, Mizuka

Teacher research,
Learner autonomy



グローバルスタディーズ(修士・博士後期)

[教授]

斎藤 文彦

SAITO, Fumihiko

国際開発論／
開発倫理学／
国際協力研究／
サステナビリティ研究



[教授]

清水 耕介

SHIMIZU, Kosuke

国際政治経済理論／
グローバル市民社会論／
ジェンダー論／
ポスト構造主義



[教授]

福山 泰子

FUKUYAMA, Yasuko

アジャインター壁画
の研究／
東洋美術史
(インド美術史)



[准教授]

河合 沙織

KAWAI, Saori

ラテンアメリカ経済／
ブラジル地域研究



[准教授]

瀧口 順也

TAKIGUCHI, Junya

近現代ヨーロッパ史／
ソ連・ロシア研究／
国際共産主義運動史



[准教授]

中根 智子

NAKANE, Satoko

途上国の貧困問題／
子どもの貧困／
インドの都市開発と
スラムの形成／
サービス・ラーニング



言語コミュニケーション(修士)・グローバルスタディーズ(博士後期)

[教授]

瀧本 真人

TAKIMOTO, Masato

通訳・翻訳研究／
異文化間
コミュニケーション／
日本語教育／
英語教育



[教授]

**チャブル
ジュリアン**

Julian CHAPPLE

国際関係学／
比較文化学／
市民権／教育学 など



[教授]

長嶺 寿宣

NAGAMINE, Toshinobu

英語教師の実践知獲得
プロセス／
言語教師の認知・情動／
外国語教育政策／
学校教育に係る諸問題



[教授]

平塚 貴晶

HIRATSUKA, Takaaki

Language Teacher
Education／
Qualitative Research
Methods



[教授]

松村 省一

MATSUMURA, Shoichi

第二言語・外国語
習得研究／教員養成
外国語教育政策



[准教授]

長尾 明子

NAGAO, Akiko

英語教育／
communities
of Practices／
Systemic
Functional
Linguistics



[准教授]

**ピゴット
ジュリアン**

Julian PIGOTT

第二言語学習への
動機付け／
日本での第二言語教育／
言語教育／教育／
メディア論



多様な在学生 A diverse student population

国際学研究科では、設立以来、中国、韓国、台湾、ロシア、スロバキア、ドイツ、インドネシア、ハンガリー、ポルトガル、ポーランド、カンボジア、イラン、トルコ、ミャンマー、米国など、多様な国から留学生を受け入れてきました。



自分の可能性を切り拓こう!!

檜 雄詞さん

修士課程 2 年生 言語コミュニケーション専攻

2025年9月 プリティッシュコロンビア大学大学院 博士後期課程進学(特待生)決定

私が言語コミュニケーション専攻へ進学した理由は、英語教育について専門的に学び、英語科の専修免許状を取得するためです。龍谷大学国際学研究科では、世界の最前線で英語教育について研究している教授陣のもとで学ぶことができます。加えて、卒業時には専修免許状を取得することができます。専修免許状とは、大学で取得できる一種免許状よりも専門性が高いもので、昨今の教育現場で教員に求められている重要な資質の一つです。大学院で得た学びと専修免許状を持って教壇に立つことで、教員として将来的により活躍できるようになると考え、進学を決心しました。

大学院に進学してから現在までは、英語科教員のコミュニケーション中心の授業に対する自己効力感について研究してきました。自己効力感とは、個人が特定のタスクにおいて「できる」と感じる信念のことです。先生方は、幅広い知見に基づき、私のニーズに合わせて必要な助言や支援を与えてくれました。国際学研究科では、多様な学生の要望に沿った手厚いサポートを得ることができ、自分のやりたいことを追求できる理想的な環境が提供されていると感じています。そのため、まだやりたいことが決まっていない学生も、大学院で自分の新たな興味・関心を見出し、探究することができると思います。進学するかどうか迷っている学生がいれば、国際学研究科の先生方は快く相談に乗ってくださいと思いますので、是非連絡してみてください。

Just Give It a Shot!

オレクシュク ロクソーナさん

修士課程 2 年生 グローバルスタディーズ専攻

I have always wanted to pursue a master's degree because it allows me to delve deeper into a subject. My undergraduate degree was in Japanese Studies, and when Russia started a war in Ukraine, I had the opportunity to come to Japan as an exchange student at Ryukoku University for a year. At that point, I knew I wanted my master's research to be meaningful and globally relevant, so I started exploring my options.

After speaking with several professors at Ryukoku, I learned about a relatively new master's specialization in Global Studies and decided to give it a try. Now, I am conducting research on the representation of Ukrainian refugees in Japanese media, and I feel deeply inspired by both my teachers and my classmates. In every class, I enjoy the engaging discussions and the freedom to openly talk about global issues. Everyone is passionate and supportive, which motivates me to keep exploring and learning. I am very satisfied with my decision to join Ryukoku University's Graduate School of International Studies, as it has provided an excellent environment to nurture my research ambitions. This experience will undoubtedly prepare me for the challenges and opportunities that the future may hold.



世界で活躍する修了生 Graduates who are active worldwide

国際学研究科を修了された方は、研究の道に進まれる方もいれば海外で活躍されている方も少なくありません。その一例をご紹介します。



何かに没頭できるチャンス!

川崎 陽平さん

国際学研究科 修士課程 国際文化学専攻 2023年3月修了
株式会社極洋

私は学部時代にフランスで2度の語学留学を経験し、その際に地域特有の食文化、特にカエル食に触れ、食文化に対する深い興味を抱くようになりました。この経験がきっかけで大学院進学を決意しました。

現在、私は国内エビ市場においてトップクラスのシェアを誇る企業にて、買付・輸入業務を行っております。修士課程での論文講読、フィールドワーク、修士論文執筆を通して鍛えられた「リサーチ力」、「論理的思考力」が、産地状況や為替、国内市況など様々な要因を考慮した上で安定的・持続的な供給をする私の業務に役立っています。

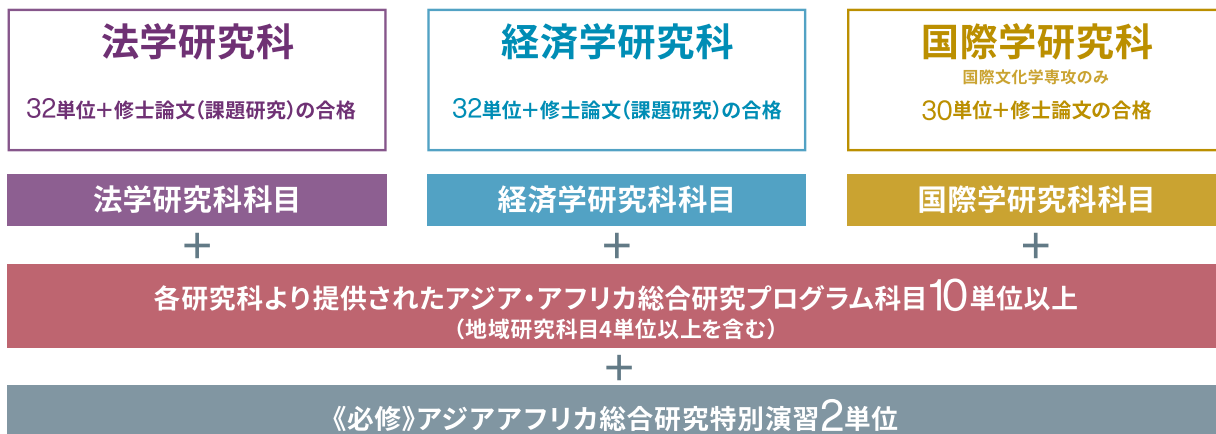
余談ですが、院生時代に指導教員の鈴木滋教授から「エビと日本人」という書籍を薦められて読みましたが、当時、この本の内容が現在の仕事に繋がるとは思っておらず、作品の当事者になり、持続的な漁業への一翼を担う方法を日々模索しています。

今後の目標は、持続可能な水産業の形成に貢献することです。実家が茨城県で水産卸売業を営んでおり、現在の職場で経験を積みながら、水産業界の動向を俯瞰的に理解し、地場産業の発展に寄与したいと考えています。日本の水産物消費が減少傾向にある中、持続可能な漁獲・養殖方法を模索し、100年後も日本の魚食文化が続く社会作りに貢献することを目指しています。

アジア・アフリカ総合研究プログラム

3研究科にわたるカリキュラム

▼ 修了要件



アジア・アフリカ総合研究プログラム科目

科目区分		授業科目	開講 研究科
特別 演習	アジアアフリカ総合研究 特別演習		
	地域研究科目	アジアⅠ	アジア経済史研究
アジア政治論研究			法学
日本経済論研究			経済学
中国経済論研究			経済学
日本研究A			国際学
共生社会研究A			国際学
言語文化研究A			国際学
言語文化研究B			国際学
宗教文化研究B			国際学
芸術・メディア研究A			国際学
芸術・メディア研究B			国際学
特殊研究 (Asian Politics)			法学
アジアⅡ		アジア経済論研究	経済学
		中東政治論研究	法学

科目区分		授業科目	開講研究科
地域研究科目	アフリカ	アフリカ政治論研究	法学
		アフリカ経済論研究	経済学
		アフリカ社会論研究	法学
		特殊研究 (African Politics)	法学
総合研究科目	政治分野	国際政治経済学研究	経済学
		比較政治論研究	法学
		国家・民族論研究	法学
		平和・紛争論研究	法学
		外交政策論研究	法学
		開発援助論研究	法学
		国際法研究Ⅰ	法学
		国際人権法研究Ⅱ	法学
		国際環境法研究Ⅰ	法学
		特殊研究 (Comparative Politics)	法学
		特殊研究 (International Human Rights LawⅡ)	法学

科目区分	授業科目	開講研究科	
総合研究科目	経済分野	民際学概論	経済学
		民際学理論研究	経済学
		経済協力論研究	経済学
		環境経済論研究	経済学
		国際地域経済研究	経済学
		農業経済論研究	経済学
		フィールド調査研究	経済学
		開発経済学研究	経済学
	文化社会分野	特殊研究(法政応用英語Ⅰ)	法学
		特殊研究(法政応用英語Ⅱ)	法学
		特殊研究(法政応用英語Ⅲ)	法学
		特殊研究(法政応用英語Ⅳ)	法学
		日本研究B	国際学
		共生社会研究B	国際学
		宗教文化研究A	国際学

※2025年度の科目名です。
※年度によって不開講となる科目があります。

アジア・アフリカ総合研究プログラム4つの特徴

1 3研究科の共同運営
このプログラムは、法学研究科、経済学研究科、国際学研究科の3つの研究科が共同で運営する大学院修士課程の共通プログラムです。履修を希望する場合はいずれかの研究科に所属する必要があります。それぞれの研究科から、アジア・アフリカ地域研究で豊富な実績を持つ教員が科目を担当し、研究科の枠を越えてプログラム生を指導しています。

2 充実したフィールド調査補助費制度
アジア・アフリカ地域に対して旺盛な研究意欲を持ち、論文作成においてフィールド調査を行うことが認められたプログラム生に対して、フィールド調査補助費制度を設けています。これまで多くの学生がフィールド調査補助費制度を利用し、修士論文の作成に役立っています。

3 修士号とプログラム修了証の授与
本プログラムを修了した学生は、所属する研究科の修士号(法学修士、経済学修士、国際文化学修士)と、プログラム修了証(Certificate of Completion of Graduate Program in Asian and African Studies)を同時に修得できます。なお、修士論文の指導は所属研究科の教員が行います。

4 様々な入試制度を用意
本学では、学内推薦入試、一般入試、社会人入試等、様々な入試制度を用意していますので、自身に合った入試を選択することができます。また、法学研究科では、独自に「アジア・アフリカ総合研究プログラム入試」を整備しています。プログラム進学後の研究計画書をもとにした、筆答試験1科目と口述試験により可否を判断します。

龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

龍谷大学大学院 国際学研究科

新たな知と価値を創造するために、
「心・知・行動」の拠点として、地域や世界の課題に對峙し、
問い続ける。それが、龍谷大学の研究のあり方です。

これまでの社会のありようや私たちの行動を省み、
先端的な研究や学際的連携による知の集約のもと、
世界の人々と協力して困難な課題に立ち向かう。
その姿勢と行動が、未来の可能性を切り拓いていきます。

深草キャンパス 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
Tel 075-645-5645 world@ad.ryukoku.ac.jp



国際学研究科のHPはコチラから

<https://www.world.ryukoku.ac.jp/graduate/>

■ 入試について

「2026年度 入学試験要項」をご確認ください。
また、入試結果については入試情報サイトに掲載しております。
<https://www.ryukoku.ac.jp/admission/nyushi/>

■ 学費・諸会費について

2026年度学費・諸会費については、「2026年度入学試験要項」をご参照ください。

※掲載の学年、所属は取材時のものです。

2025年5月発行

